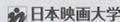


私の想い、
届いてますか。

潮風

韓国の南の島、^{チェジュ}濟州。帰郷を願いながら
事故で海に沈んだ祖母への「見知らぬ」想いとらわれていく

監督：金善 プロデューサー：榎本雪子 撮影：佐久間駿 撮影協力：泰山匠 西澤輝年 吉柳拓 井上裕太 編集：阿部徹 制作：岩井蒼一郎

 日本映画大学 日本 12016 | ビスタ | 31分 www.eiga.ac.jp/sotsusei

韓国の南の島、濟州（チェジュ）。平和の象徴と呼ばれるこの美しい島から逃れるように彼女が渡った日本は、かつて祖母が暮らした地でもあった。やがて彼女は帰郷を願いながら海難事故で海に沈んだ祖母への「見知らぬ」想いとらわれていく。それは自ら背を向けたはずの故郷への想いに悩まされることでもあった。6年ぶりの帰郷。それを迎えたのは、ひたすら娘を心配する平凡な家族の姿だった。あの日と変わらぬ海を前に彼女の心は静かに解け出していく。

韓国の南西にある濟州道。距離の近い日本との交流の歴史は深く1910年の日韓併合以降多くの道民が日本に出稼ぎに訪れ、定住していった。第二次大戦後、日本の統治から解放された朝鮮半島では、親米勢力と共産主義勢力の厳しい対立が始まる。濟州道でもそれは険しいものとなり、3.1警察発砲事件を起点にさらに緊張が高まる。米国主導で進められた南だけの単独選挙が韓国の南北分断を決定的にするとして、1948年4月3日、選挙に反対する濟州南労党（社会主義政党）は武装蜂起する。鎮圧のため送り込まれた韓国軍や警察によって約6万人が虐殺されたとされる。しかしその大半は政治やイデオロギーとは無縁な人々だった。これを「四・三事件」と呼ぶ。北朝鮮との武力対峙の状況が今日まで続く韓国では、この虐殺が長らくタブー

としてされていたが2003年ノ・ムヒョン大統領が公式に謝罪し、犠牲者の名誉回復や真相究明に着手した。

1948年のこの事件を契機に多くの道民が日本に避難した。事件前28万人だった島の人口は1957年には3万人弱まで減少したとされている。

近年、濟州道は韓国の最南端にあることからリゾート地として発展しゴルフ場やカジノを目当てに訪れる日本人も多い。しかし、この事件について知る者は少ない。

このドキュメンタリーは、この濟州道の歴史を背景にしながらも、政治的な告発を目指すのではなく、濟州道から日本に留学した監督・金善（キム・ソン）個人の物語として描かれる。島を離れ日本に学ぶ自らと、戦前に来日し、戦後、帰国の途上で船の事故によって他界した祖母を重ね合わせ、四・三事件後に濟州道を離れ在日一世として暮らす親戚を巻き込みながら、日本と濟州道を往来する心の旅として描かれている。

事件後に生まれた金善が、伝聞でしかない、写真さえも残っていないおぼろげな祖母のイメージを求め、その足跡を追う。その過程で家族の歴史の心象が浮かび上がる。

私が離れたこの島は
あなたが愛した島でした



CAST

金成栄
金昌珠
梁貞順
金昌和

STAFF

プロデューサー：榎本雪子
撮影：佐久間駿
撮影協力：泰山 匠
西澤輝隼
青柳 拓
井上裕太
編集：阿部 徹
制作：岩井蒼一郎
監督：金善

資料提供：
在日韓人歴史資料館

協力：
農家民宿 あさり
山本りよ
佐竹菊美

土佐清水市郷土史同好会のみなさん
同好会会長 田村公利
柳原敬文
柳花統 山田隆子 戎井愛
池直美 山崎重信 上杉利則
澤田勝行 東近伸 山下昭文
三好秀洋 山下晃弘 谷孝二郎
中村春利 黒原一寿

足摺国際ホテル
会長 田村泰輔

沖本路子
岡崎幸
佐竹信子
佐竹貴子

足摺岬金剛嶺寺
住職 長崎勝教

明治学院大学
准教授 鄭榮植

土佐清水市海上保安省

金業院
住職 田中政樹

濟州 4・3 平和公園
濟州港沿岸旅客ターミナル

潮風

ドキュメンタリー | 57分 | DCP

予告編

Facebookページ

